

神戸大学医学部附属病院 広報誌

H19.10.10 NO.3

楠 だより 季刊

発行責任者： 病院長

編集： 神戸大学医学部附属病院広報委員会



今月の花：ホテイアオイ

禁煙外来のご紹介

内科外来看護師 蓬菜 節子

2006年4月から禁煙治療に医療保険が適応されるようになりました。このことは、多くのマスコミにも取り上げられ、ご存知の方も多いと思います。禁煙治療薬を使用し禁煙の際に生じるニコチン退薬症状をコントロールすることで昔よりもうんと楽に禁煙できるようになりました。そこで今回は当院で行われている禁煙外来を紹介したいと思います。

禁煙治療を医療保険で希望される方は、次の4つの要件を満たしていることが必要です。その要件とは、

- 1) 直ちに禁煙しようと考えていること、
- 2) ニコチン依存症に係るスクリーニングテスト（TDS）でニコチン依存症と診断されていること（初診時に診断いたします）、
- 3) ブリンクマン指数（＝1日の喫煙本数×喫煙年数）が200以上であること、
- 4) 禁煙治療を受けることを文書により同意していることです。

これらの要件を満たした方は、標準禁煙治療プログラムを受けていただけます。しかしながら、この要件を満たしていても入院中の方は現在の診療報酬制度では、禁煙治療が医療保険適応にはなりません。また、一度医療保険で禁煙治療を受けた方で一年以内に再び禁煙治療を希望される方も適応されません。

禁煙治療は医療保険の適応でなくても、自由診療による治療は可能です。医療保険で受診した場合、薬剤費用にもよりますが、約1万5千円程度で治療が可能です。一方、自由診療の場合は、3～5万円程度とやや高額になりますが、毎日1箱喫煙する方なら、3～5ヶ月分のタバコ代とほぼ同額となり、早く治療を始める方がお得になるかも知れません。また、禁煙教室は、どなたでも無料で参加いただけますので、お気軽にお越しください。

標準禁煙治療プログラムでは、初診を含めて計5回の診察があります。初めて禁煙外来を受診する方には、まず禁煙教

室を受講いただき、タバコはなぜ止めにくいのか、ニコチン代替療法とはどのようなものか、タバコを吸わないでいる方法について学んでいただきます。その後希望者には、医師の診察で禁煙治療薬（ニコチン製剤）の選択と説明を受けていただき、いよいよ禁煙治療の開始です。約2週間ごとに、受診し喫煙状況や禁煙による離脱症状についてお聞かせください。禁煙継続にあたって困難の乗り越え方、継続するコツをお知らせします。禁煙を少しは考えておられる皆様、まずは、ご相談ください。

禁煙外来（初診）

第2，4週火曜日午後2時～

禁煙教室（午後1時半～）受講後、希望者には呼吸器内科医師が診察いたします。事前にお申し込みください。（≠切当日午前11時）

所要時間：初診1～1.5時間
再診約15分

担当：西村善博，玉尾夏実
内科外来看護師

お問い合わせ、お申し込み：
078-382-5111（代）
内科外来処置室まで
（拡充の予定あり）

診療最前線

腫瘍内科

腫瘍内科 南 博信

神戸大学病院の腫瘍内科は2007年6月に開設された新しい診療科です。腫瘍内科では各種がんに対する化学療法やホルモン療法などの薬物療法を幅広く行います。

今までの日本の化学療法は、肺がんは呼吸器内科で、胃がんや大腸がんは消化器内科で、というように臓器別の診療科で行われてきました。しかし臓器別診療ではレントゲン診断や内視鏡検査も行なわなければならない、薬物療法のみを専門にすることはできませんでした。したがって、がん化学療法の専門医が少なかったために、「がん難民」を生み出す素地となっています。抗がん剤は副作用が強い

ため、使いこなすためには技術が必要です。

一方、肺がんや胃がん、乳がんなど発生する臓器は異なっても同じお薬で治療できる場合も多く、薬物療法を専門にする腫瘍内科医があらゆるがんの治療を臓器に関係なく担当の方が合理的です。このような考え方から、欧米ではがんの薬物療法はもっぱら腫瘍内科医が担当しています。日本でも最近その重要性が認識され、今後がんの化学療法は臓器別診療から欧米のような臓器横断的診療に移行していきます。神戸大学医学部附属病院でも腫瘍内科が新設され、臓器横断的ながん薬物療法を開始しました。

最近の医学の進歩とともに、がんが発生し、増大や転移する仕組みが分子レベルで明らかにされ、それに応じた薬物が開発されています。副作用や効き方が今までの抗がん剤と異なり、分子標的薬などと呼ばれています。B細胞型の悪性リンパ腫に対するリツキシマブ（リツキサ）、乳がんに対するトラスツズマブ（ハーセプチン）、慢性骨髄性白血病などに対するイマチニブ（グリベック）、最近大腸がんを使用できるようになったベバシズマブ（アバスタ）などがその例です。

今までの抗がん剤は、がん細胞を死滅させることを目的として開発されました。そのため、副作用も高度で時に命にかかわることもありました。一方、分子標的薬ではがん細胞を死滅させるのではなく、

増殖を止めることを目的として開発されたものが多いため、副作用が比較的軽く使いやすいお薬と言えます。一方、効果の点では、がんを完全に消してしまうというよりはがんと共存しながら長生きしようという考え方のお薬です。ただし、実際にはがんが非常に小さくなりほとんど分からなくなってしまう患者さまもいらっしゃいます。また副作用もない訳ではありません。現在、開発中のお薬もこのような分子標的薬が多くなっており、がんの化学療法も将来は随分と変わるかもしれません。

近い将来、神戸大学病院の腫瘍内科でもこのような分子標的薬の治験（開発中の薬剤の臨床試験のことです）を実施し、早期に使用できる機会を提供したいと考えています。

PET 検査の利用について

放射線部 診療放射線技師 青木 一

PET 検査の優れた機能

PET 検査とは Positron Emission Tomography（陽電子放出断層撮影）の略で、従来からの CT や MRI などの形をみる検査とは異なり、細胞の活動状態がわかる画像診断です。

当院では、「FDG（フルオロデオキシグルコース）」という検査薬を用いて、がん（悪性腫瘍）などの病気の画像化を行い、CT や MRI などとともに診断に役立てています。

検査薬の名前から「FDG-PET 検査」とも呼ばれています。

FDG-PET 検査が保険適用されている病気（がん）の種類によっては、FDG-PET 検査の費用は健康保険の適応になりません。

保険適用されている疾患（平成19年度）

てんかん、虚血性心疾患、肺がん、乳がん、大腸がん、頭頸部がん、脳腫瘍、膵がん、悪性リンパ腫、転移性肝がん、原発不明がん、悪性黒色腫、食道がん、子宮がん、卵巣がん、

なお、当病院では健診目的の FDG-PET 検査は行っていません。

検査薬はつくり置きができません

当院では、1日3回決まった時刻にできたの検査薬を工場から運んでもらっています。

検査薬が出す放射線は時間とともに減っていくのですが、その寿命は短く、約2時間で半分になってしまいます。

このため、予約の時間に遅れると、必要な検査薬の量を下回り、検査が行えなくなりますので、ご注意ください。

FDG-PET 検査の安全性

FDG-PET 検査の被ばく線量は、1回あたり約2.2mSv(ミリシーベルト)です。これは、通常の胸部X線検査の7~8回分程度ですので、健康上の問題はありません。

また、検査薬の副作用もごくまれで、重い副作用は報告されていません。

検査前6時間は絶食



検査の6時間以上前から絶食してください。FDG-PET 検査は、細胞がエネルギー源としてブドウ糖を取り込む性質を利用したものです。

そのため、食事などで糖分を摂ると細胞が満腹になり、検査薬のFDGが取り込まなくなります。

水やお茶など糖分の入っていない飲み物は、むしろ飲んでおく方が良いです。

検査薬の注射



腕の静脈から血糖値を測定するための採血を行い、続いて、検査薬を注射します。普通の注射、点滴とかわりありません。

1時間安静に保つ



注射後、1時間ほどリクライニング椅子で安静にして、全身に検査薬が行き渡るのを待ちます。

この間、激しく手足を動かしたり、おしゃべりをしたりしてはいけません。

待機室に入ると、水を飲んでもらいます。

検査薬は、尿を排出する経路である腎臓や膀胱にたまりやすく、それが病変を見つける妨げになることもあります。そのため水をたくさん飲んで、撮影直前にトイレに行って余分な検査薬(尿)を排泄しておきます。

撮影時間は約40分

1時間後、トイレを済ませて撮影です。

検査中の注意は身体をできるだけ動かさないで下さい。

身体を動かさなければ、きれいな画像が得られます。呼吸は安静にしてください。息を止める必要はありません。

約40分で撮影は終了します。(体格などにより撮影時間は多少異なります)

時間を置いて二度撮影



時には、正常な細胞に検査薬が集まってしまう場合もあります。

1回目の撮影後、時間をおき、もう一

度撮影すると、診断がしやすくなる場合があります。

約20分で撮影は終了します。(この場合も、体格で時間は異なります)

検査終了後

FDGの注射から検査終了まで3時間ほど。その後は着替えて、すぐに帰宅できます。

なお検査薬は、時間とともに尿として排泄されるので体内には残りません。また、1日もすれば、放射線自体が出なくなるので被ばくの心配はありません。

FDG-PET 検査の費用

診療報酬上、1回あたりの検査料は7万円ぐらいで、そのうち1～3割を自己負担することになります。

サラリーマンなどの3割負担の人では2万1千円前後となります。

ご意見箱で意見交換

患者サービス向上委員会 委員長 大島 敏子

病院玄関と売店横の掲示板に、患者さまからのご意見のお返事を出していますが、ご覧頂いたことはございますか？この病院の中には、患者さまからの意見をお受けする箱が、5カ所設置してあります。毎日回収して、対象科(課)に振り分けお返事を求めたり、お電話や連絡先の書かれているご意見には、直接ご連絡させて頂いたりしています。ご意見は、1週間分をまとめて担当委員が読みとり、振り分けの確認をします。この役割の中心にいるのが、患者サービス向上委員会で、月1回全委員が集まり、患者サービ

ス全般について話し合っています。委員は17人で、医師、看護師、管理栄養士、臨床検査技師、臨床放射線技師、事務職からなります。タイムリーな対応や回答を心がけておりますが、事実関係の確認を取るのに手間がかかっています。院内への周知は、一ヶ月遅れになりますが、診療科長や各診療部門の責任者が集まる会議で、ご意見のまとめとして配布し、且つ徹底を図りたいことやお褒めいただいたことを、一部口頭で発表し意見交換をしています。

ご意見は様々ですが、医療従事者とし

で深く考えさせられることも多々あり、有り難いと感謝する一方で、病室の冷房や騒音、面会者の椅子がないとか清掃がなっていない等、その場で職員に言っていたら解決出来ることも数多くあります。

それだけ言いつらい雰囲気は私共が持っているのか、言ったらご自身に不利益が生じるとお考えなのか良くわかりませんが、不満のはけ口の様に殴り書きされているご意見やいたずら書きもあり、又、ボールペンが無くなる頻度も高く、どうしたものか？と悲しい気分になります。

医療は、人と人との関係によって成り立つものです。大学病院は、診療をしながら教育と臨床研究をする場です。教育・研究をする場と位置づけられていることが、一般病院との違いで、難しい病気や重症の患者さまも数多くおいでです。ですがそんな中で、患者さまと医療従事者は、お互いに、安全で良質な医療を創りあげるパートナーとして存在したいもの

です。その為には、意見の交流が必要でしょう。このご意見箱がそういうことのためにも使われ、病院がよりよく変化して行くことが出来たら良いと提案します。

今ご利用いただいている患者さまやご家族の皆様にお聞きしたいことの一つは、退院時間の問題です。入院患者さまの中で、ベッドが空かずお待ち願った方は、いらっしゃいませんか？申し訳ありませんでした。予約入院なのに、何故ベッドが準備されて無いか？不満に思われた方もいらっしゃるでしょう。実のところ、退院予定のベッドの調整が上手くいかないことがよくあります。患者サービス向上委員会としては、この病院の果たすべき役割をふまえ、退院時間を午前中として午後には新たな患者さまを受け入れられる体制をつくりたいと考えますが、患者さまやご家族の皆様は如何お考えでしょう。ご意見を頂ければ幸いです。

♪ オータムコンサートのお知らせ ♪

秋の「院内コンサート」は患者さまに、少しでも潤いと憩いを持っていただきたいと企画しているものです。どうぞお楽しみください。

日時：10月12日（金） 18:00～19:00
場所：第一病棟1階フラザホール

＝ご出演は＝

- ◆オカリナ演奏の園山洋史さん他
- ◆ピアノ演奏の井筒良子さん他

曲目については、当日プログラムをお配りいたします。



病院内 案内

1階



病院の基本理念

1. 患者中心の医療の実践
2. 人間性豊かな医療人の育成
3. 高度先進医療の開発と推進
4. 災害救急医療の拠点活動
5. 医療を通じての国際貢献

診療時間

■ 初診受付

午前 8 時30分～午前11時00分

■ 再診受付

午前 8 時30分～午前11時00分

■ 休診日

土曜日・日曜日・祝休日・

年末年始

(12月29日から1月3日)

♪ ボランティア募集中♪

ボランティア活動の内容

- ・ 玄関案内・タオルローリング・縫製・補修ミシン・花壇の手入れ
- ・ 寄贈本の整理と貸し出し・小児科病棟で読み聞かせ・病棟活動
- ・ 手芸教室・イベント（七夕、バザー、クリスマスプレゼント、折紙・工作教室、ひな壇飾りなど）

ご家族の理解とあなたの**あたたかい手助け**が、患者さまの心のやすらぎを得る環境作りに役立ちます。あなたの仲間入りを待っています。



神大ボランティアグループ

お問い合わせ：078-382-5051 (ボランティア室)

2階

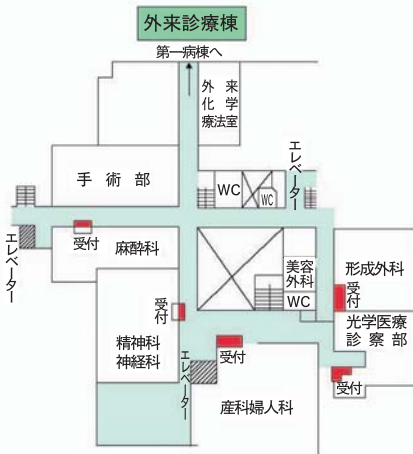
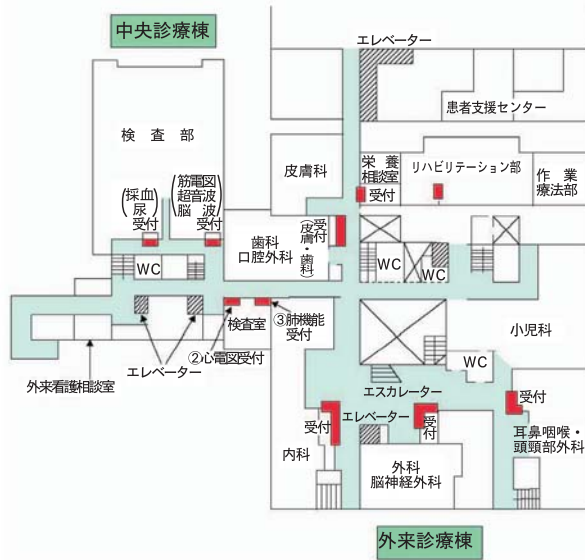
- * 循環器内科
- * 腎臓内科
- * 呼吸器内科
- * 免疫内科
- * 消化器内科
- * 糖尿病・内分泌内科
- * 老年内科
- * 神経内科
- * 血液内科
- * 漢方内科

は内科受付にお越しください。

- * 食道胃腸外科
(乳腺含む)
- * 肝胆膵外科
- * 心臓血管外科
- * 呼吸器外科
- * 小児外科
- * 脳神経外科

は外科脳神経外科受付にお越しください。

遺伝子診療部は
小児科受付にお越しください。



3階

発行：神戸大学医学部附属病院

〒650-0017

神戸市中央区楠町7丁目5番2号

電話〔078〕382-5111 (代表)

ホームページ

<http://www.hosp.kobe-u.ac.jp/>

ご意見, ご感想をお待ちしております。

FAX〔078〕382-5050